

森林資源を活用した循環型・ゼロカーボンシティ

CENTRAL 真
GARDEN 庭
MANIWA 市

写真はGREENable HIRUZEN(愛称 風の葉)
隈研吾建築都市設計事務所のデザイン(真庭市蒜山上福田)

2025.11.21
第8回地域脱炭素セミナー



真庭市キャラクター「まにぞう」

岡山県真庭市産業観光部 地域エネルギー政策課 課長 杉本隆弘

〒719-3201 岡山県真庭市久世2927-2

TEL : 0867-42-5055 FAX : 0867-42-3907

E-mail: biomass@city.maniwa.lg.jp URL: <https://www.city.maniwa.lg.jp/>



2022年 田舎暮らしの本(宝島社)

「住みたい田舎」ベストランキング 〈人口3万人以上5万人未満部門〉

- ◎若者世代・単身者が住みたいまち **4位**
- ◎シニア世代が住みたいまち ... **4位**
- ◎子育て世代が住みたいまち ... **10位** / 123位中



 **約4万人**
(東京都23区の0.4%)
人口

 **約828km²**
(東京都23区の130%)
面積

 **約8割**
森林の約7割が
ヒノキ
(美作ヒノキ)
森林率

◆真庭市のプロフィール

- ・場所：岡山県の北部
(南北50km 東西30km)
- ・財政規模 (R7当初予算)
 - ：一般会計 337億円
 - ：特別会計 203億円 (公営企業含む)
- ・2005年9か町村合併により誕生
- ・バイオマス産業都市指定 (2014年)
- ・SDGs未来都市指定 (2018年)
- ・脱炭素先行地域指定 (2022年)

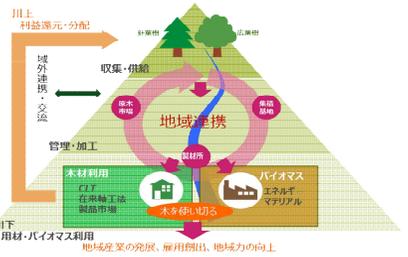


太田昇市長

◇真庭市の経営方針◇

- ・地域資源循環型の地域経営
- ・林業、木材加工業活性化と再生可能エネルギー産業
- ・環境型低コスト農業の推進
- ・高齢化社会に対応する共生社会

真庭市の歩み「バイオマス・SDGs・脱炭素」



21世紀の真庭塾

地元の若手経営者等が集まり、地元地域の未来を考える組織を立ち上げ。1997年に、「2010年の真庭人の1日」を報告。豊かな森林資源を背景に、「木を使いきるまち」を目指すことなどが盛り込まれる。

1992年 2006年

バイオマスツアー開始

バイオマスタウン真庭構想

木質資源をエネルギー活用するための実証事業を開始



バイオマス産業都市に選定

- ・真庭バイオマス発電事業
- ・木質バイオマスリファイナリー事業
- ・有機廃棄物資源化事業
- ・産業観光拡大事業

2014年



生ごみ資源化事業開始

2015年

真庭バイオマス発電所稼働

発電容量：10,000kW
地域の未利用資源（間伐材・製材端材等）を活用し、「木を使い切る」仕組みを構築



SDGsを推進し、その取組をホームページ上で発信しあう「真庭SDGsパートナー」は、5月19日現在389団体に⇒



地域循環共生圏プラットフォーム選定

2018年 2019年

SDGs未来都市に選定

地域エネルギー自給率100%/2050カーボンニュートラルの実現を目指すことを宣言。
→具体策：木質バイオマス発電所の増設に向けた検討 ほか



真庭市：第1回脱炭素先行地域に選定

真庭市が脱炭素先行地域に選定されたことにより、国・自治体からの支援を受け、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進める。

年度	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
1. 脱炭素社会の実現に向けた取り組み					
2. 脱炭素社会の実現に向けた取り組み					

第1回脱炭素先行地域に選定

庁内組織「2050ゼロカーボンシティまにわ対策チーム」の設置・施策検討(R3.10~11)

ゼロカーボンシティを宣言

ゼロカーボンシティまにわ宣言

近年、地球温暖化が原因と見られる気候変動の影響により、日本各地で深刻な災害が発生しています。平成30年7月豪雨では、岡山県下でも、本市を含む多くの住民の生命・財産を脅かす甚大な被害が発生しました。気候変動は、本市にとって対岸の火事ではなく、当事者として対策を講じなければならない喫緊の課題となっています。

気候変動以外にも、海洋プラスチック問題など、ただちに行動を起こさなければ手遅れとなる重大な環境問題が噴出しています。化石燃料に依存し、環境を犠牲にした豊かさの追求は、もはや限界を迎えています。

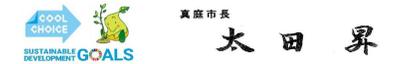
まさに、環境・経済・社会の三側面の課題に統合的に取り組むSDGsの理想への転換が必要であり、この地域を安心・安全で持続可能なものにしていくために、今、脱炭素を前提とするまにわに向かって舵を切って進まなければなりません。

SDGs未来都市・真庭市は、SDGs目標13「気候変動に具体的な対策を」の達成に向けて、豊富な森林や岡山三大河川旭川水糸の豊かな水など、地球資源を活用した自然再生エネルギーによる地域エネルギー自給率100%を目指し、エコで災害にも強いまちづくりに取り組みを進めます。

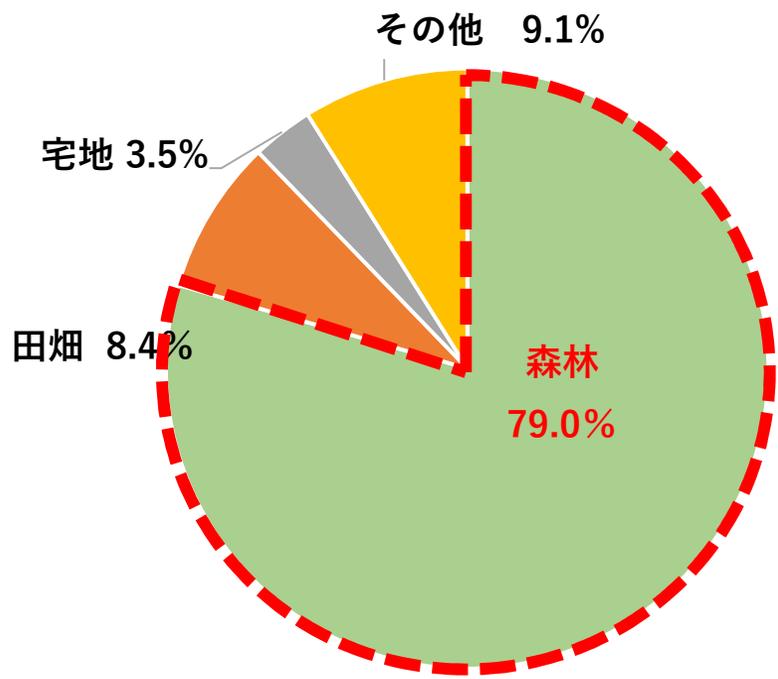
また、焼却ごみの削減を図る資源循環システムづくり、エコカー・自転車を活用したエコで健康な交通網づくり、市民・事業者と協働したカーボン・オフセットによる森づくり、「100% CHOICE(賢い選択)」の推進によるエコガバナンス行動できるまちづくりなど、ソフト・ハード両面で様々な脱炭素のまちづくりを進めています。

真庭市は、市民・事業者一体となり、これらの脱炭素のまちづくりを一層加速させ、2050年二酸化炭素排出実質ゼロ都市「ゼロカーボンシティまにわ」実現に向けた歩みを進めていくことをここに宣言します。

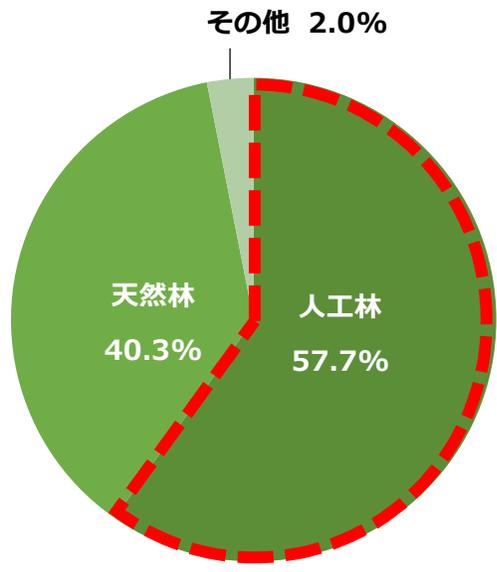
令和2年(2020年)3月17日



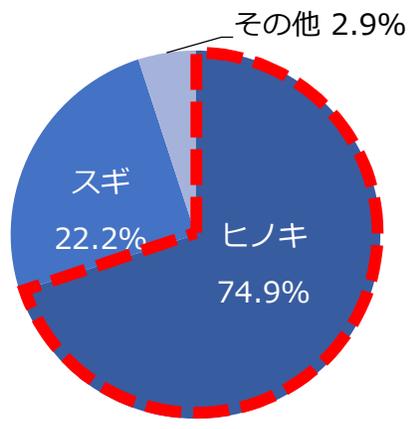
真庭市の8割は森林 (県内2位！)



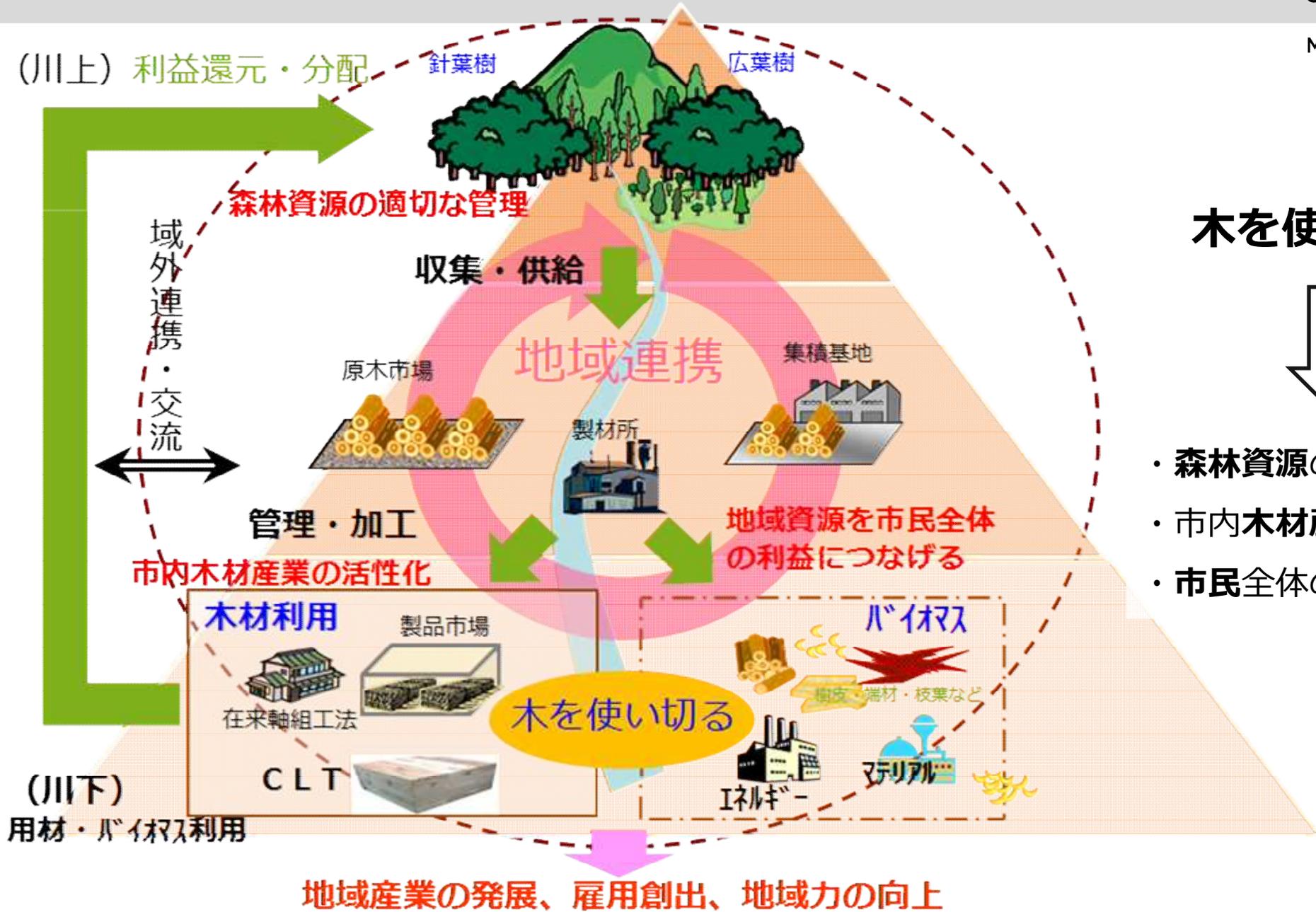
うち6割は人工林 (スギ・ヒノキ)



うち7割はヒノキ



木を使い切るまち真庭の取組



真庭バイオマス発電事業

バイオマス集積基地



年間8～9万tを収集・加工

【林地残材の買取参考価格】

- ・スギ 4,500円/t
 - ・ヒノキ、広葉樹 5,000円/t
- ※状況によって変動あり





未利用木材
(間伐材・林地残材など)

一般木材
(製材端材など)

地域内外の木質資源をチップ化



10,000kWのバイオマス発電利用
22,000世帯分の需要に対応可能

稼働9年目 (R5年7月～R6年6月実績)
売上 ; 約20.9億円 (未利用木材 : 一般木材 = 6 : 4)
燃料購入 ; 約14億円
石油代替 ; 約3.1万KI, 約36.3億円相当
※灯油価格R5年7月～R6年6月の平均117円/ℓで算出

経済効果 : 市内バイオマス産業により付加価値額が**約52億円増加** (※)
 (売電額 + 燃料調達額の合計を超える部分は、間接的な波及効果 : 運送事業などの地域経済へも寄与)
 ※産業連関表 (2012年と2017年) の分析による

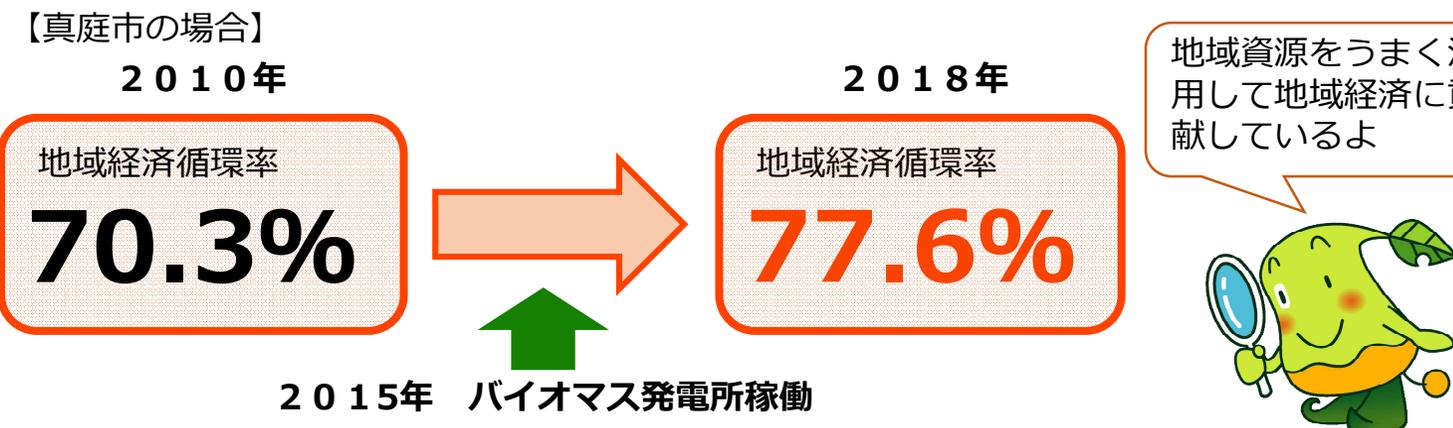


向かいのCLT工場で熱利用

RESASによる地域経済循環図

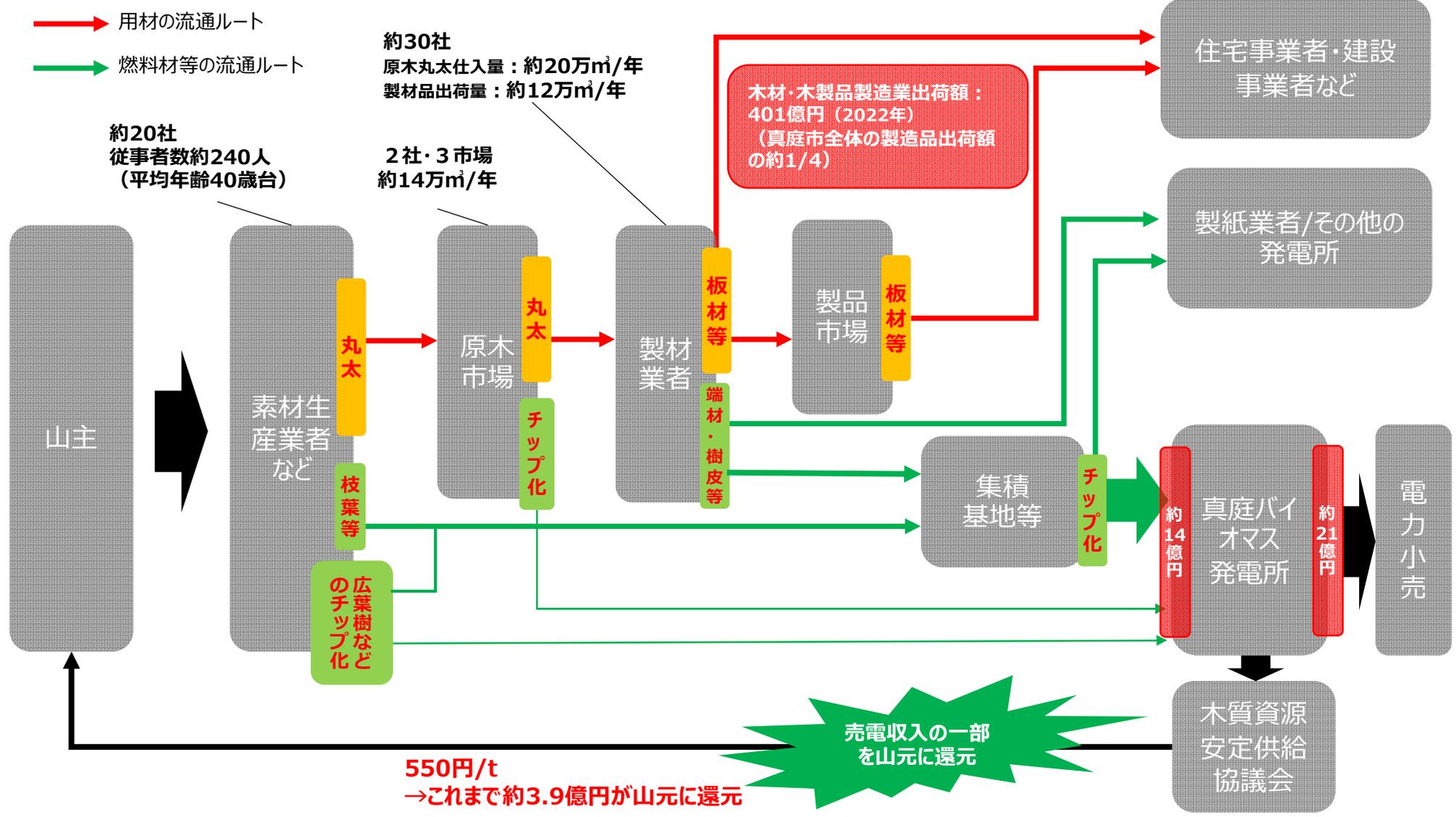


RESAS（地域経済分析システム）とは？
産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビックデータを集約し、可視化するシステム



- ① 「第2次産業の生産(付加価値額)」が148億円(135.8%)増 (413億円⇒561億円)
- ② 「所得への分配額」が155億円(111.3%)増 (1,369億円⇒1,524億円)
- ③ 「分配(所得)」の総額は15億円増 (1,947億円⇒1,962億円)
 「雇用者所得」のうち地域内は58億円増 (802億円⇒860億円)
 「その他所得」のうち地域内は97億円増 (566億円⇒663億円)
 「その他所得」のうち地域外は136億円減 (537億円⇒401億円)
- ④ 「支出」の総額微増だが、民間消費額が増 (857億円⇒908億円)
 「その他支出」の地域外への流出が減 (619億円⇒429億円)
 「その他支出」のうち地域外への流出の割合が減 (78%⇒62%)

【木を使い切る仕組み】



エネルギーの地産地消



真庭バイオマス発電所
(10,000kW)

森林資源を活用し地
域電力を発電

真庭バイオエネルギー
(地域小売電気事業者) ↓ 必要量の電気を調達し
地域へ供給

平成28年4月1日
より電力供給開始



平成30年4月1日より
市内小中学校など47施設
に電力供給開始
※現在は合計107施設



真庭市役所
再生可能エネルギー
自給による運営



久世エスパス
文化事業を推進



エネルギーの地産地消

まにわっと電力株式会社

令和7年8月5日設立

理念

まにわっと電力(株)は、その事業を通じて電力の地産地消を実現し、得た売電収益の一部を地域や市民のために活用し、還元することで地域課題の解決や地域活性化等、地域への貢献を目指します。

まにわっと電力株式会社

■主な事業

- 電力小売の取次事業
- 地域の活性化に関する事業 等

■会社概要

所在地 真庭市中島143
 資本金 4,000万円
 代表者 代表取締役 建井 輝子
 出資 真庭市 51%
 市内外企業等 9社 49%
 設立日 令和7年8月5日



例

- こども・子育て
- 地域の足対策
- 第1次産業対策



例

- 地域資源の発掘・活用
- エネルギー資金の地域内流通促進



真庭市：森とくらしで循環 ゼロカーボンシティ真庭

脱炭素先行地域の対象：市内全域の公共施設群

主なエネルギー需要家：全公共施設283施設

取組の全体像

公共施設について、全面的なLED化や屋根等に太陽光・蓄電池の導入を図るとともに、**新設する木質バイオマス発電**や**バイオガス発電**から電力調達を行い脱炭素化を図る。2030年までに**全公用車（普通自動車）の次世代自動車化**を図るとともに急速充電器等の整備を進める。また、木質バイオマス発電では未利用の広葉樹林や耕作放棄地における早生樹などの利用を図るとともに、バイオガス発電では生ごみ等のバイオ液肥化を行うなど**地域資源循環システムを構築**する。

1. 民生部門の脱炭素化に関する主な取組

- 176施設の全面的なLED化を推進
- 27施設に新たに太陽光発電（2,100kW）と蓄電池を設置
- 広葉樹林や耕作放棄地における早生樹など、未利用の地域資源を活用した**木質バイオマス発電所**の増設や、**地域新電力での市内電力供給**の実現、その収益を活用した森林・環境への関心の喚起等により、地域エネルギー自給率100%を目指す

- 現在整備を進めている生ごみ等資源化施設で、生ごみ、し尿、浄化槽汚泥等をメタン発酵させて**メタンガス**と**バイオ液肥**に再生。また、同施設にバイオガス発電設備を導入して自家消費を進めるとともに、**バイオ液肥**は市内農地で活用して**地域資源循環システム**を構築



3. 取組により期待される主な効果

- 新規で導入する太陽光発電、バイオマス発電、生ごみ由来のバイオガス発電といった多様な再生エネルギー設備により、大雨・土砂災害等災害リスクが高い真庭市の**レジリエンス強化**を推進
- 木質バイオマス発電所の増設により、一定規模の安定的な木材需要を創出することができ、真庭市の製造業の30%を占める**木材関連産業の活性化**を更に推進
- 生ごみ等資源化施設の導入により、**可燃ごみを削減**するとともに、生ごみ等から資源化したバイオ液肥を活用し、**低コスト農業を実現**

(PPA実績 R4事業)



北房文化センター



真庭中央食育センター

公共施設のCO2実質排出ゼロ！

市民・企業などへ脱炭素ドリノが波及！

- ・庁舎及び避難所等を優先して高効率照明設備を導入
- ・小学校の特別教室に高効率空調設備を導入
- ・太陽光発電設備をPPA（電力販売契約）により設置



脱炭素先行地域のその他の取組

その他の取組 概要

事業	数	想定年間CO2削減量 (t-CO2/年)
LED化	176箇所	438
ZEB化・省エネ化	19箇所	207
公用車(全普通自動車) 次世代自動車化	61台	150
EVシェアリング導入	2台	23
PPAによる太陽光 発電設備設置	27箇所	想定年間発電量 2,205MWh



太陽光発電設備 (PPA)

まにわEVシェアリング

～たまにわEV乗ってみたい?～

対象車

日産サクラ



日産リーフ



まにわEVシェアリングとは?

真庭市の公用車(EV)を
休日は一般の方も利用
できるサービスです!



NISSANのWEBサービス
「e-シェアモビ」からご利用
いただけます

利用料金: 15分ごと 200円(サクラ・リーフ共通)

EVシェアリングの特徴って?

- ・24時間いつでもWebから予約・変更OK
- ・EVの走行性能や先進技術を気軽に体感
- ・道中の充電も一切利用者負担なし
- ・除菌抗菌コートで清潔な車両を維持
- ・免許証で簡単開閉
- ・災害時には非常用電源として活用可能

EVシェアリングを使うには?

- ①「e-シェアモビ」申し込みページへアクセス
- ②会員情報やクレジットカード、免許証を登録
会員登録完了!
- ③会員専用ページから空いているEVを予約
- ④免許証をかざして車を開ける
- ⑤乗った後は充電器につないで免許証をかざせば返却完了

実施期間

令和5年 令和6年
7月18日(火)～3月24日(日)

閉庁日(土日・祝日等) 24時間可

平日は公用車として使用しますので、ご利用いただけません。



EVシェアリングチラシ



EVシェアリング導入式典

EVの推進～EVまにわ構想 充電充実10・20～

もっと安心！EVインフラ

- 目指せ"充電充実10・20"
・急速から20km以内に他の充電器
・どこからでも10km以内に充電器



- ◇公共施設等への普通充電器設置
・全庁舎
・文化・スポーツ施設
・観光・宿泊施設
・道の駅、JR駅 など
- ◇充電器設置費等補助
- ◇市有地を活用した民間設置



★充電切れゼロのまちへ！
★EVユーザーの誘客促進！

もっと身近に！EVユース

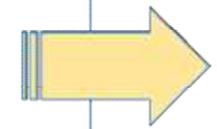
- 目指せ"EVがそばにあるまち"



- ◇公用車の導入
・全普通自動車更新
・軽、超小型自動車
・観光地での活用
・バス等特殊車両 など
- ◇EVシェアリング
・市民が触れる機会創出
・公共交通からの乗り継ぎ
・観光地での活用
- ◇普及啓発
・環境学習、イベント
- ◇災害活用体制整備
・V2B等導入
・防災計画反映
・防災協定締結
- ◇EV購入費補助
・市民ポイント連携



★EVがあたりまえに走るまちへ！
★地域活性、レジリエンス強化！



まにわEVシェアリング
～たまにわEV乗ってみたい?～

利用料金：15分ごと 200円(サクラ・リーフ共通)

EVシェアリングの特長って?

- ・24時間いつでもWebから予約・変更OK
- ・EVの走行距離や充電残量を随時確認可能
- ・途中の充電も一切費用発生なし
- ・標準保険料で追加な保険を確保
- ・保険料で保険期間
- ・災害時には非常用電源として活用可能

EVシェアリングを使うには?

- ①(お・シェアまち)申し込みページへアクセス
- ②自動車免許やクレジットカード、免許証を登録
- ③会員登録完了!
- ④会員専用ページから空いているEVを予約
- ⑤免許証をかざして車を開ける
- ⑥予約した車は自動的に予約した場所まで自動返却!

実施期間
令和5年 7月18日(火)～3月24日(日)

開庁日 (土日・祝日等) 24時間可

貸出・返却場所
真庭市役所本庁舎(真庭市大宮1-1-1)



2023年4月、**地球温暖化対策実行計画(区域施策編)**を策定
 地域活性化の推進と地域課題の解決を図るため、市民・事業者・行政が一体となり脱炭素のまちづくりを進める

削減目標
 目標年度・・・2030年度 実質排出量を基準年度(2013年度)比 **51%削減**
 長期目標・・・2050年度 実質排出量 **ゼロ** (=カーボンニュートラル)

目標達成のための取り組み
 地球温暖化の影響とみられる気候変動は、自然豊かな本市にとっても対岸の火事ではなく、将来世代にわたる責任として、当事者として脱炭素に取り組む必要があります。



森林・土地など
地上資源の
持続的な活用

地上資源の豊富な
真庭市にとって
大きなチャンス
 脱炭素の取り組み
によって…

- 「環境」「社会」「経済」の調和のとれた多様性と循環性のあるまちを目指し、自然とともに営む豊かな暮らしを未来に引き継いでいく
- 地域内の資金循環を創出し、地域経済の活性化を図る
- その資金を活用し、地域の困りごとの解消を図る

■ 脱炭素の取り組みの5本の柱
 次の5本の柱とその代表的な取り組みを中心に、市民・事業者の方々とともに脱炭素の取り組みを推進し、脱炭素社会の実現を目指します。

① 地域活性化の推進と地域課題の解決
 バイオマス発電所の増設検討、生ごみ資源化、市産材を利用した製品の開発・販売、普及・教育の推進など



生ごみの分別収集と資源化

② 大規模災害時にも安心してエネルギーを活用できる体制の整備
 EVシェアリング、公共施設への再生可能エネルギー・蓄電システムの導入、指定避難所への給電体制整備など



クールチョイス推進事業 実践イベントでの災害支援電源供給車 (EV) 展示

③ 環境にやさしいライフスタイル・経営の実践
 ごみ減量の推進、クールチョイスの推進、自転車・公共交通機関の利用促進、エコドライブの実施やカーシェアリングの活用、住宅やビルの省エネルギー化など

④ 再生可能エネルギーと地域の共生
 再生可能エネルギーの導入促進区域の検討、再生可能エネルギー由来の電力への切り替えなど

⑤ 情報発信によるシビックプライドの醸成と地域価値の向上
 観光事業と連携した情報発信、普及啓発、市内交流事業など



観光事業と連携したエコテイクアウトの実践

「地域づくり」×「脱炭素」
 をテーマに、公募した市民と一緒に**市民会議を開催**。
 (2022年度 計5回) 脱炭素のまちづくりについて議論し市に提言。提言は計画に盛り込まれた。



脱炭素の取り組みの具体的な取組 (例)

具体的な対策・施策・取り組み

全体方針 脱炭素を地域課題の解決につなげるべく省エネの徹底と再生可能エネルギーの最大限の導入を進めると同時に、本市の特徴を生かした循環型社会構築や環境整備を進めるため以下5本の柱を掲げ、市民・事業者・行政がそれぞれまたは一体となって取り組みを進めることにより、2050年度カーボンニュートラルのまちを目指します。

1. 地域活性化の推進と地域課題の解決

	行政	市民	事業者
地域エネルギー事業を実施する事業体の構築検討	○*		○
豊かな森林資源を活用した木質バイオマス発電所の増設の検討	○*		
→ 森林の持続的経営体制の強化、林業・木材産業の生産性向上の取り組みの支援・担い手対策等を実施	○*		○
→ 広葉樹の活用推進や耕作放棄を利用した早生樹栽培等の推進	○*		○
二酸化炭素吸収源である森林の価値の顕在化	○		○
生ごみの資源化と濃縮液肥の活用推進	○*	○	○
省エネ製品の開発・製造・販売、導入推進	○		○
市産材を利用した製品の開発・販売、普及・教育の推進	○		○

★・・・脱炭素先行地域計画の対策・施策

【第1回】あるべき真庭市の未来像（魅力ある真庭市in2050）とは？

日時：2022年8月29日（月）【参加人数：32名】

実施内容⇒①「世界・国の取組」の紹介、②「真庭市の取組」の紹介
③2050年脱炭素を意識しつつ地域の未来や不安について議論

10代～80代の市民が参加！
「真庭で脱炭素に取り組む意義」を共有！
脱炭素のまちづくりへの提言をまとめる

【第2回】脱炭素社会の課題とは？

日時：2022年9月28日（水）【参加人数：26名】

実施内容⇒①第1回の振り返り
②市民アンケート（地域・年代等を考慮し抽出した2,400人）の結果共有
③脱炭素に向けたアクションの検討（議論）

【第3回】具体的にはどのような対策を講じるのか？

日時：2022年10月27日（水）【参加人数：22名】

実施内容⇒①前回までの振り返り、②脱炭素の実現に向けた施策・事例の紹介
③脱炭素に向けたアクションの検討（議論）

【第4回】具体的解決策を実践したときの真庭の姿とは？

日時：2022年12月14日（水）【参加人数：20名】

実施内容⇒①前回までの振り返り、②なぜ「真庭」が脱炭素に取り組むのか
③市民・企業・行政がそれぞれ取り組むべきアクションを検討

【第5回】市民会議として提案する「脱炭素アクション」の内容とは？

日時：2023年2月9日（木）【参加人数：19名】

実施内容⇒①前回までの振り返り、②提案に盛り込む脱炭素アクションの検討
③市民会議のこれからを考える、④MY ビジョン&アクション宣言



2023年度以降の脱炭素関連の取組

【第1回】脱炭素の取組の、市民・事業者への波及方法を考える

日時：2023年10月6日（金）【参加人数：19名】

実施内容⇒①自分の取組の評価をし、②できていないことに対し、その課題を乗り越えるための方法の検討

【第2回】脱炭素の取組でできないこと、難しそうなことを乗り越えるには

日時：2023年11月22日（水）【参加人数：15名】

実施内容⇒①自分の取組の評価②できていないこと等に対し、その課題を乗り越えるための方法について深掘りをし、解決のカギの実施方法を検討③脱炭素の日の検討

【第3回】今年度のふり返り

日時：2024年4月2日（火）【参加人数：19名】

実施内容⇒①今年度のふり返り②令和6年度市民会議及び実施事業
☞真庭版「環境を考える日」を毎月2日に制定

【番外編】脱炭素まちづくりカレッジ・カードゲーム型ワークショップ

日時：2024年1月9日（火）【参加人数：15名】

実施内容⇒①脱炭素の基礎の講義②2030年までの温室効果ガス排出削減シミュレーションカードゲーム③ふりかえり

※同日午後に職員研修としても実施（参加者16名）

2024年度

【継続】

- ・市民会議：テーマを設定して3回
- ・カードゲームワークショップ：地区に3箇所程度
- ・環境学習
- ・エコテイクアウト

【新規】

- ・環境を考える日を契機に啓発
- ・地元ケーブルテレビで番組制作
- ・小学生向け夏休みイベントの実施
- ・補助金（太陽光・EV・給湯器）

2025年度

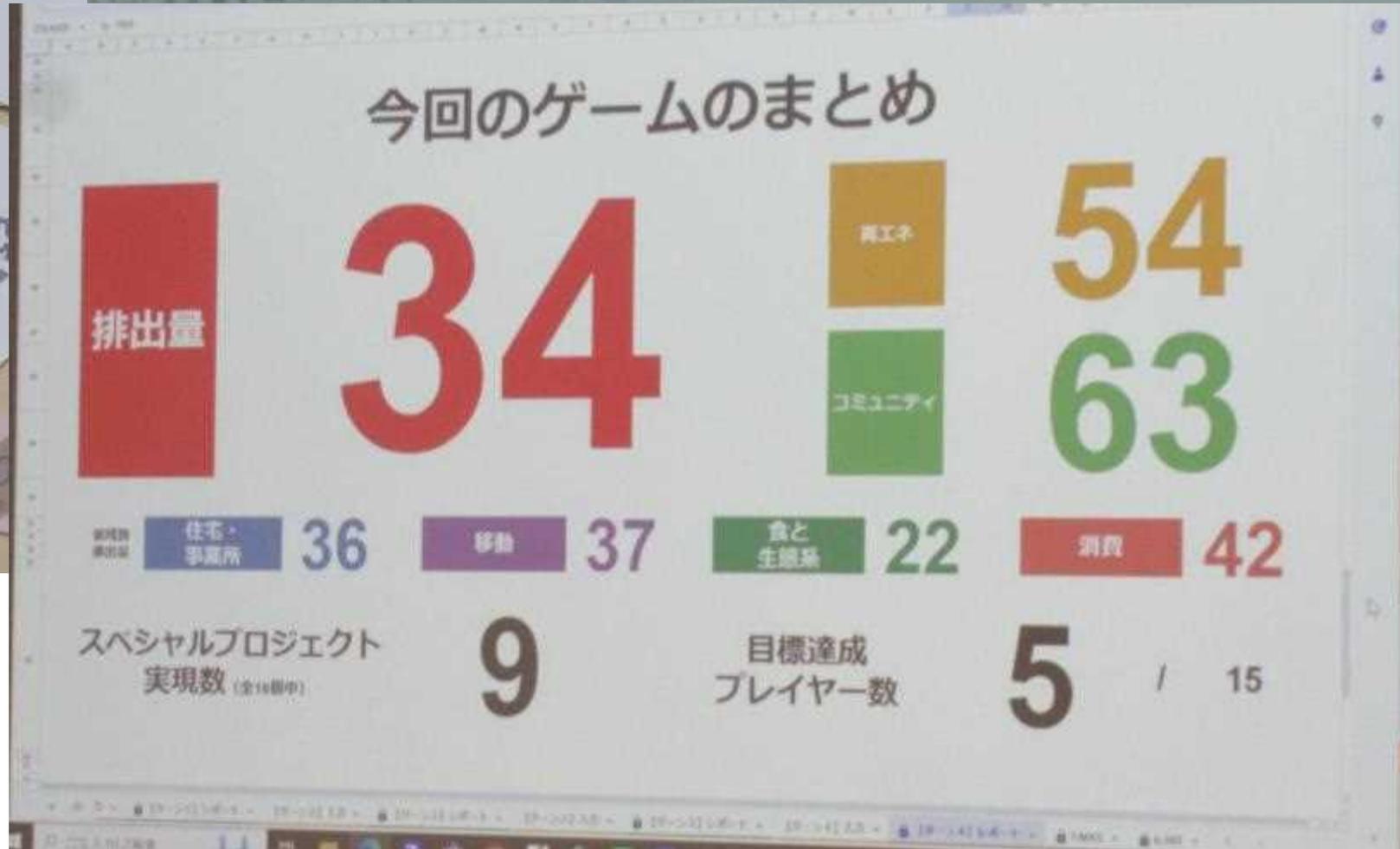
脱炭素への挑戦！真庭万博
9月20日～26日まで開催！

9/20-21	マルナカ北陽店 10:00-17:00	9/24-26	真庭市役所本庁会期 10:00-17:00
9/22	プラムタウン真庭 13:00-17:00	9/23	プラムタウン真庭 10:00-17:00
9/23	プラムタウン真庭 10:00-17:00	10/3	プラムタウン真庭 14:00-17:00

パネル展示
・万博関連企業の脱炭素への取組紹介
・EVカー・電動キックボード体験
・真庭市の脱炭素取組
・真庭市の取組紹介

市民会議
脱炭素社会に向けた市民会議及び交流会

脱炭素まちづくりカレッジ・カードゲーム型ワークショップ



ゼロカーボンシティまにわ ～市民と協働した取組～

私たちはごみになるものを減らす活動に賛同します。
エコテイクアウト
✓ チェックのある項目を実施中です。ぜひご利用ください。

- マイボトルへ無料でお水を提供します
- マイボトルへ商品提供します
- マイ容器へ商品提供します
- ごみになるものを減らすサービスを提供します
- 使い捨てカトラリーを使いません
- 量り売りで商品提供します
- イベントではリユース食器を使います
- ごみ拾い活動を応援します

SDGs 未来都市 真庭市

真庭市では市内の飲食店などと連携して、
ごみになるものを減らす取組、「エコテイクアウト」を推奨しています。
市内の多くの店で「エコ」な買い物ができます。

- ✓ **マイボトルで飲み物が買える店 → 38店**
- ✓ **マイ容器で商品が買える店 → 56店**
- ✓ **マイボトルに給水できる店など → 58店**
- ✓ **量り売りで買い物ができる店 → 13店**
- ✓ **イベントでリユース食器を使う店 → 12店**



エコテイクアウト実践店は
共通のタペストリーでPR

マイボトルの使用を進めています ～給水スポット設置を推進～



真庭市内の**公共施設5カ所へ給水スポット設置**
マイボトルに無料で給水できます。

消費電力 約1/2
長寿命 約5倍



まちの灯りもゼロカーボンへ ～防犯灯のLED化を推進～

真庭市が管理する防犯灯 **100%LED化** (約700基)
自治会管理の防犯灯 **約80%LED化** (約4,200基)

地域脱炭素を推進するにあたって

何からはじめるか（私の持論）

①地域の資源を見直す

真庭市の場合、**豊かな森林**だった（ゴミも広い意味では資源）



②どう利用するか考える（循環の仕組み）

真庭市の場合、**木が電気**になり、**生ごみが肥料**となった



③市民や民間事業者と協働する

脱炭素は**市役所**だけでは絶対できない



地域脱炭素を推進するにあたって

成功ばかりではない

①EVカーシェア

一般利用は7ヶ月で延べ23人、市外利用者は4人

真庭市では自家用自動車の所有率が極めて高い（14,300台/17,000世帯）

充電インフラが不十分（16基）

②市民への浸透

市民会議はR4から毎年延べ10回開催しているが、参加者の固定化が顕著

ホームページ・広報誌・ケーブルテレビで普及啓発を行っているがまだまだ関心は低い

地域脱炭素を推進するにあたって

それでも 楽しく！！ 熱く！！

地域脱炭素はまさしく地方創生の切り札

‘地域をより良くするために’ 信念と自信（過信は×）

困ったら誰かに頼る（市役所で1人で考えても何もいいことは無い）

「楽しいこと」を見つける（やりがい）

新しい分野なので何でもチャレンジできる

ご清聴ありがとうございました。

「ふるさと納税」で真庭市へのご支援をよろしく申し上げます。
心をこめ、自慢の真庭産品をお届けします。
ぜひ、真庭へお越しください。おもてなしの心でお迎えします。

真庭市キャラクター
「まにぞう」の応援を
お願いします。



返礼品は、自慢の真庭産品です。
ぜひ一度検索してください。

真庭市役所

〒719-3292 岡山県真庭市久世2927-2

TEL ; 0867-42-1111

URL ; <https://www.city.maniwa.lg.jp/>



「バイオマスツアー真庭」 問い合わせ先

(一社) 真庭観光局

〒717-0013 岡山県真庭市勝山654

TEL ; 0867-45-7111

URL ; <http://www.biomass-tour-maniwa.jp/>